

平成19年院内がん登録状況 (2007年1月1日-2007年12月31日新規診断分)

◎ 登録がん患者数 543件

【口唇、口腔、咽頭】		登録数	病期 (UICC)					
			0	I	II	III	IV	X
C00	口唇	1		1				
C02	舌	3			1	1	1	
C04	口腔底	1					1	
C06.2	他口腔(臼後部)	1					1	
C07	耳下腺	1					1	
C08	他唾液腺(顎下腺)	1					1	
C09	扁桃	1					1	
C10	中咽頭	2				1	1	
C12	梨状陥凹	2					2	
計		13		1	1	2	9	

【消化器】		登録数	病期 (UICC)					
			0	I	II	III	IV	X
C15	食道	19	3	6	4	2	4	
C16	胃	109		66	8	8	23	4
C18	結腸	50	18	5	7	8	10	2
C19	直腸S状結腸移行部	13	3	1	3	4	2	
C20	直腸	31	8	5	6	7	3	2
C22	肝	17		7	5	5		
C23	胆嚢	6		4	1	1		
C24.0	肝外胆管	7		2	2		3	
C24.1	ファーター乳頭膨大部	3		1	2			
C25	膵	17		1	3	3	10	
計		272	32	98	41	38	55	8

【呼吸器、胸腔内】		登録数	病期 (UICC)					
			0	I	II	III	IV	X
C31	副鼻腔	2					2	
C32	喉頭	2			1		1	
C34	肺	71		15	4	27	25	
C37	胸腺	1						
C38.1	縦隔	1						
計		77		15	5	27	28	

【皮膚】		登録数	病期 (UICC)					
			0	I	II	III	IV	X
C44	皮膚	1		1				

【乳房】		登録数	病期 (UICC)					
			0	I	II	III	IV	X
C50	乳房	42	2	22	12	5	1	

【女性性器】		登録数	病期 (UICC)					
			0	I	II	III	IV	X
C54	子宮体	7		6			1	
C56	卵巣	9		5	3		1	
	計	16		11	3		2	

【男性性器】		登録数	病期 (UICC)					
			0	I	II	III	IV	X
C61	前立腺	41			22	9	10	

【尿路】		登録数	病期 (UICC)					
			0	I	II	III	IV	X
C64	腎	13		8	1		4	
C65	腎盂	1		1				
C66	尿管	3			3			
C67	膀胱	16	8	4	1		1	2
	計	33	8	13	5		5	2

【髄膜、脳】		登録数
C71	脳(悪性)	3
D32	髄膜(良性)	1
D33	脳(良性)	1
	計	5

【甲状腺、内分泌腺】		登録数	病期 (UICC)						
			0	I	II	III	IV	X	
C73	甲状腺(45歳未満)	3		3					
C73	甲状腺(45歳以上の乳頭、濾胞、髄様癌)	7				3	4		
	計	10		3		3	4		

【部位不明確】		登録数
C76.2	腹部	1

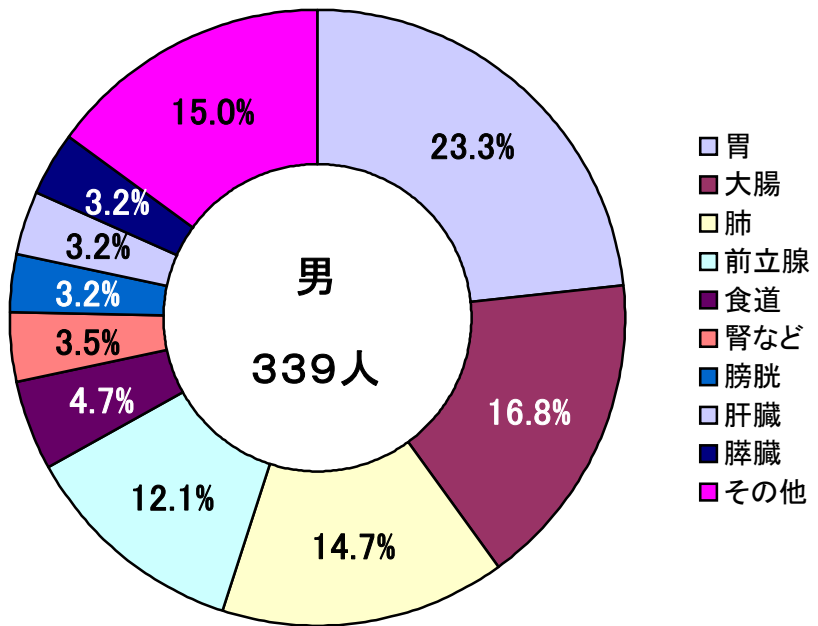
【原発部位不明】		登録数
C80	原発部位不明	2

【リンパ・造血組織】		登録数	病期 (Ann Arbor分類)					
			0	I	II	III	IV	X
C82-C85	非ホジキンリンパ腫	12		3	1	1	5	2
C90	多発性骨髄腫	6						
C91-C95	白血病	11						
D46	骨髄異形成症候群	1						

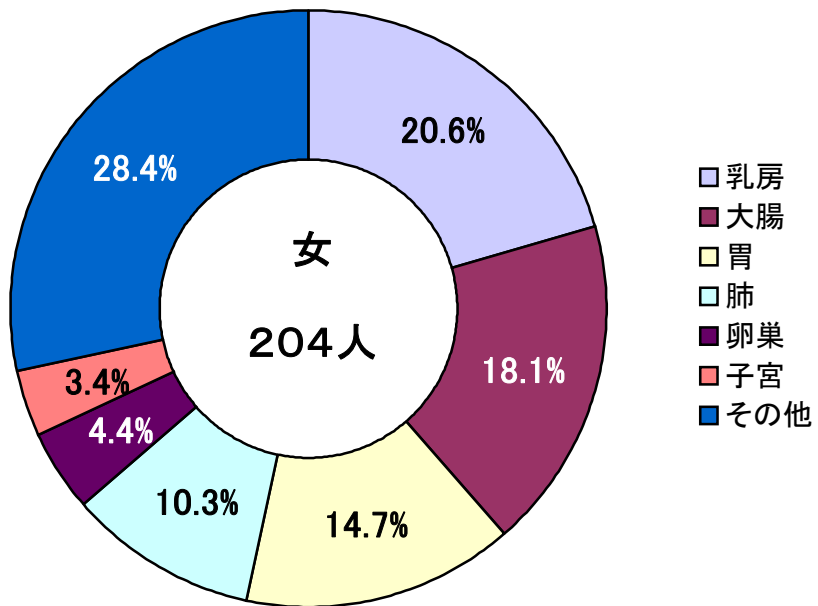
【性別・部位別】

2007年の由利組合総合病院のがん登録患者数は男性が339人、女性204人でした。
 男性で最も多いのは胃癌であり、次いで大腸癌、肺癌、前立腺癌、食道癌の順でした。
 女性では、乳癌が最も多く、次いで大腸癌、胃癌、肺癌、卵巣癌の順でした。

順位	男	人数
1	胃	79
2	大腸	57
3	肺	50
4	前立腺	41
5	食道	16
6	腎など	12
7	膀胱	11
8	肝臓	11
8	膵臓	11
10	その他	51

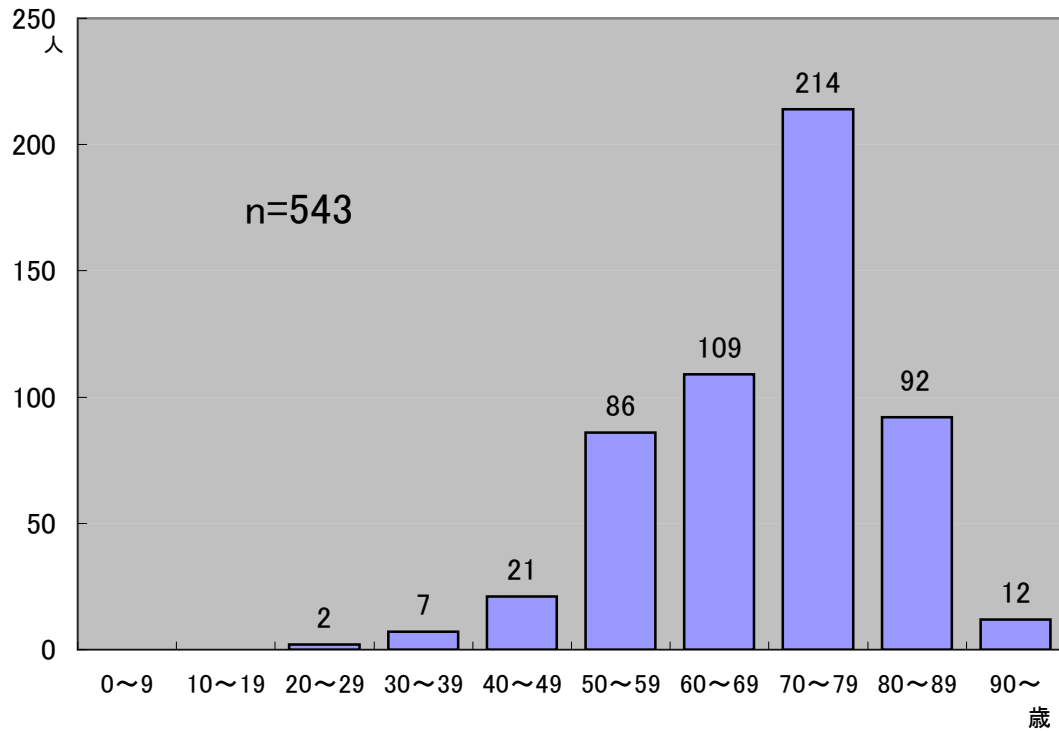


順位	女	人数
1	乳房	42
2	大腸	37
3	胃	30
4	肺	21
5	卵巣	9
6	子宮	7
7	その他	58



【年齢階層別】

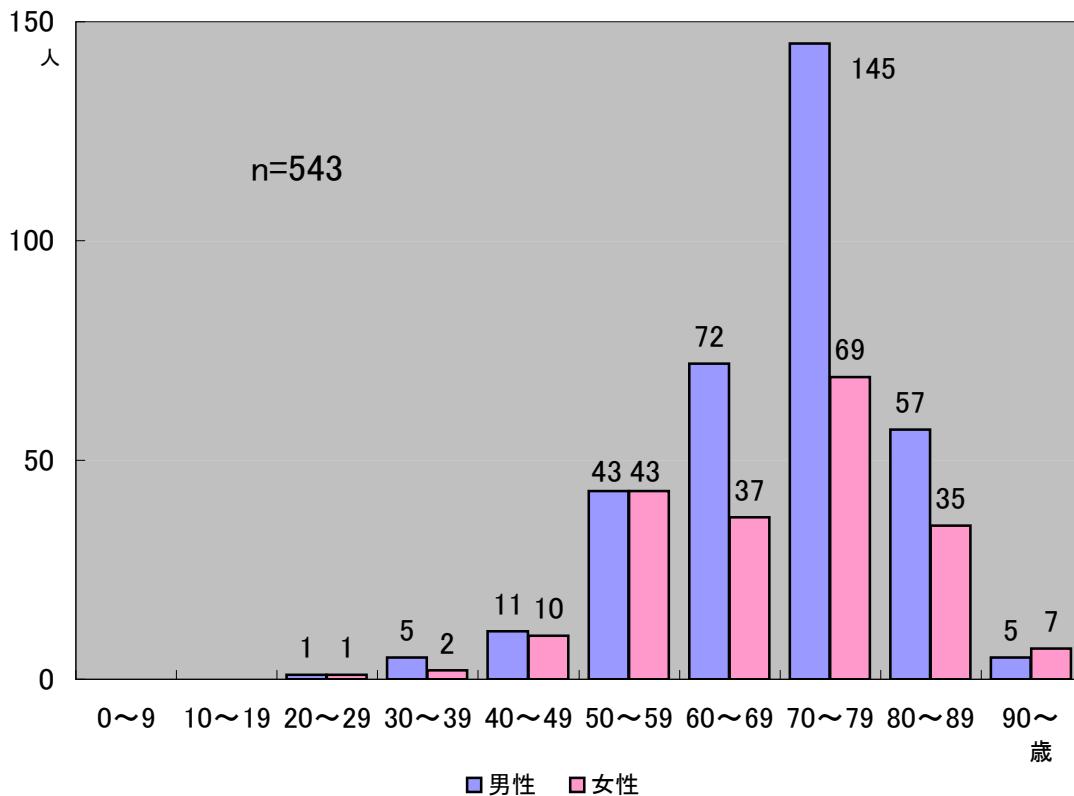
70歳代が最も多く、次いで60、80、50歳代の順でした。



【性別・年齢階層別】

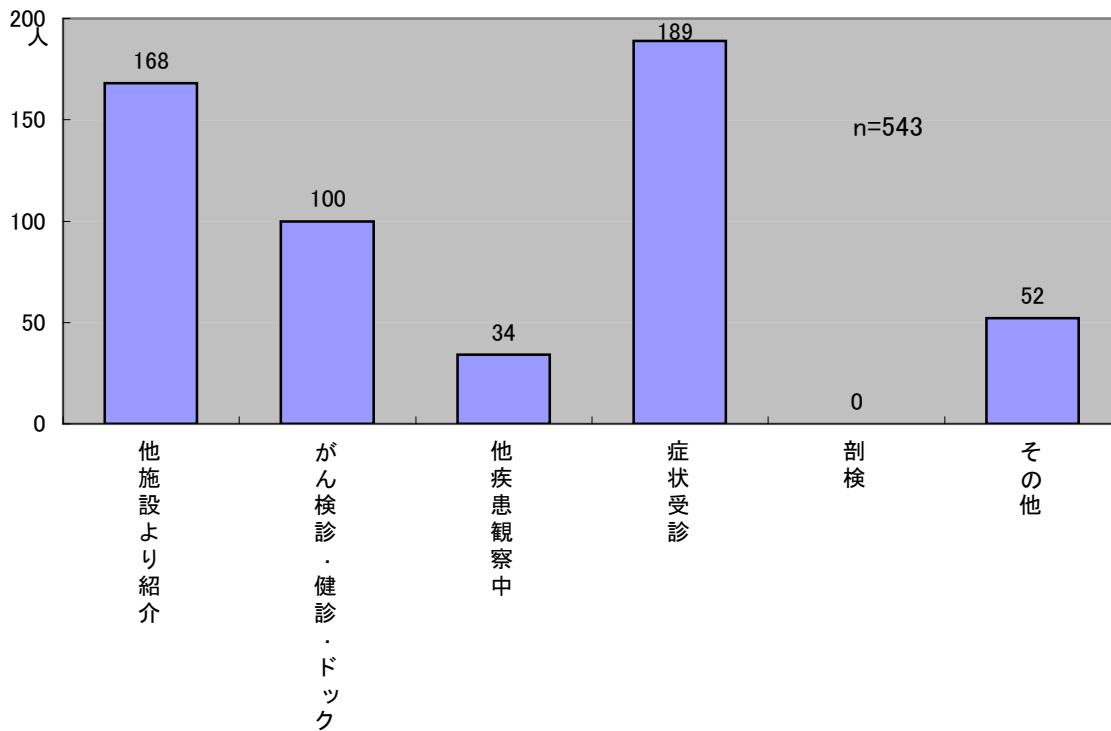
男性では70歳代が最も多く、次いで60、80、50歳代の順でした。

女性は70歳代が最も多いが、次いで50、60、80歳代の順となっています。



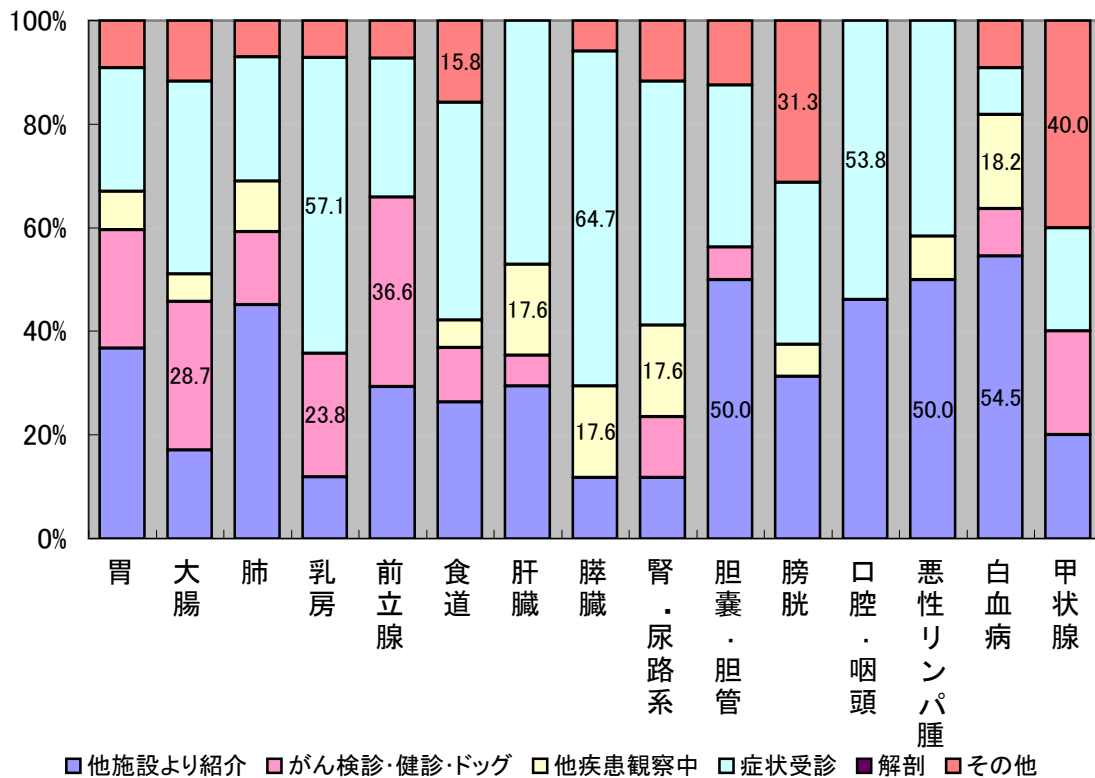
【発見経緯】

がん発見の契機となった事項は症状受診が189人(34.8%)、他施設より紹介が168人(30.9%)で、がん検診・健康診断・人間ドックが発見契機となったのは100人(18.4%)でした。



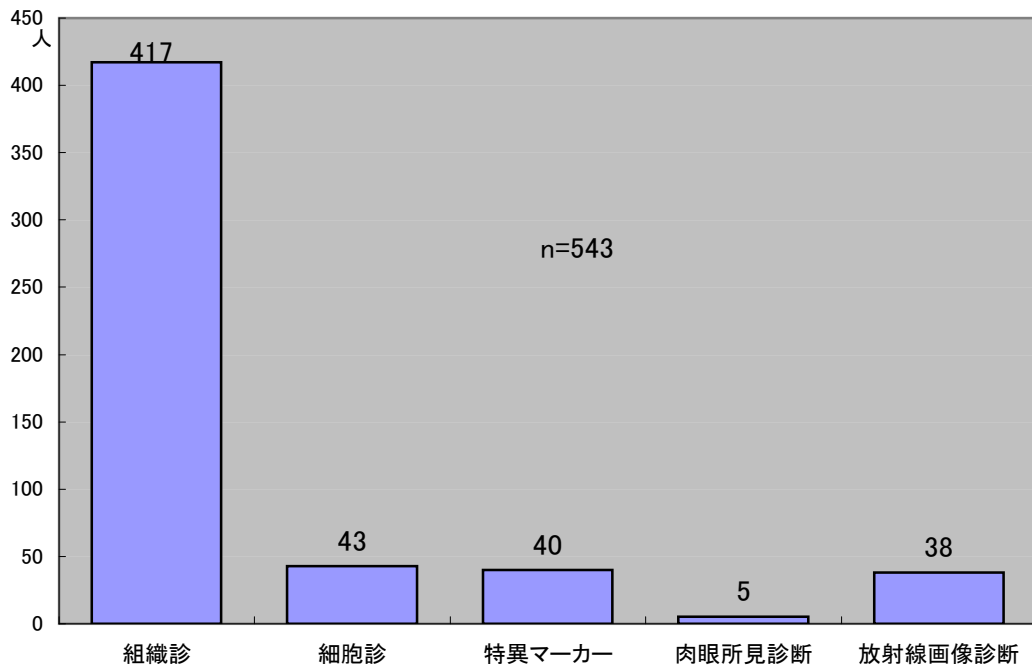
【部位別発見経緯】

部位ごとに特徴があり、前立腺はがん検診・健診・ドックが高く、膵臓、乳房、口腔・咽頭は症状受診の割合が高くなりました。



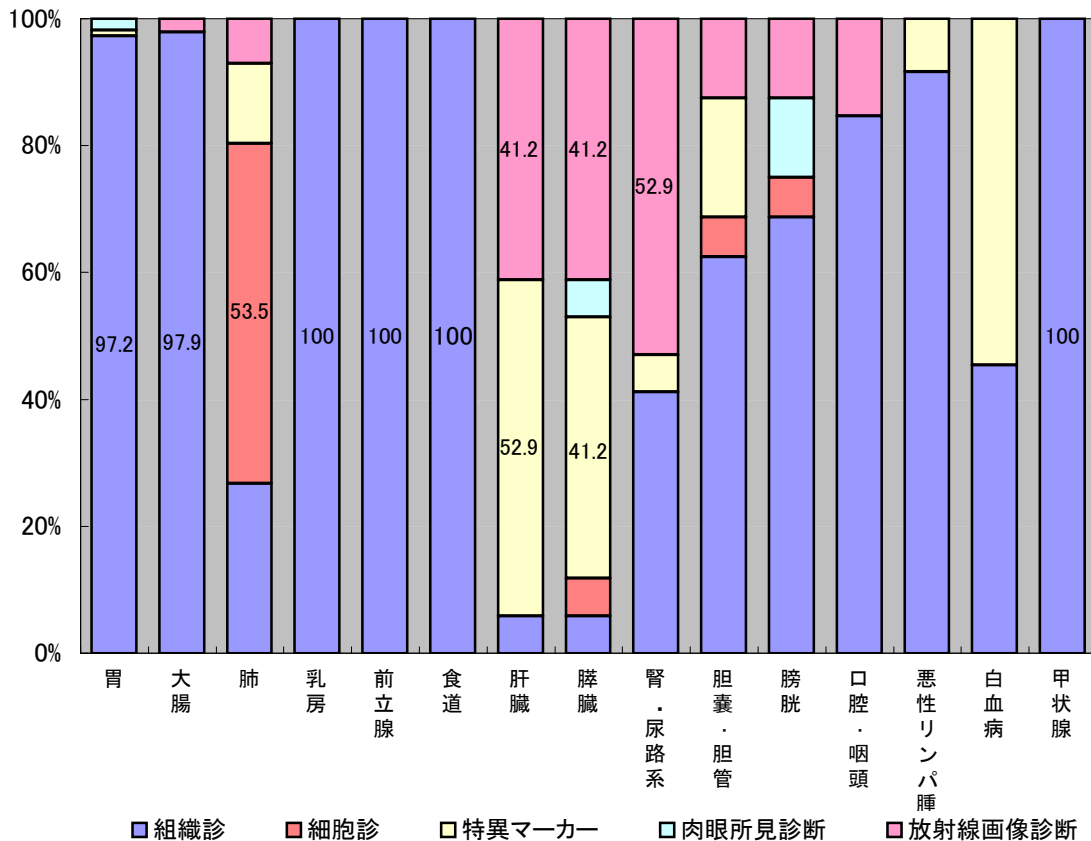
【診断根拠】

組織診断と細胞診の顕微鏡的検査が全体の84.7%に施行され、うち組織診の頻度は76.8%でした。



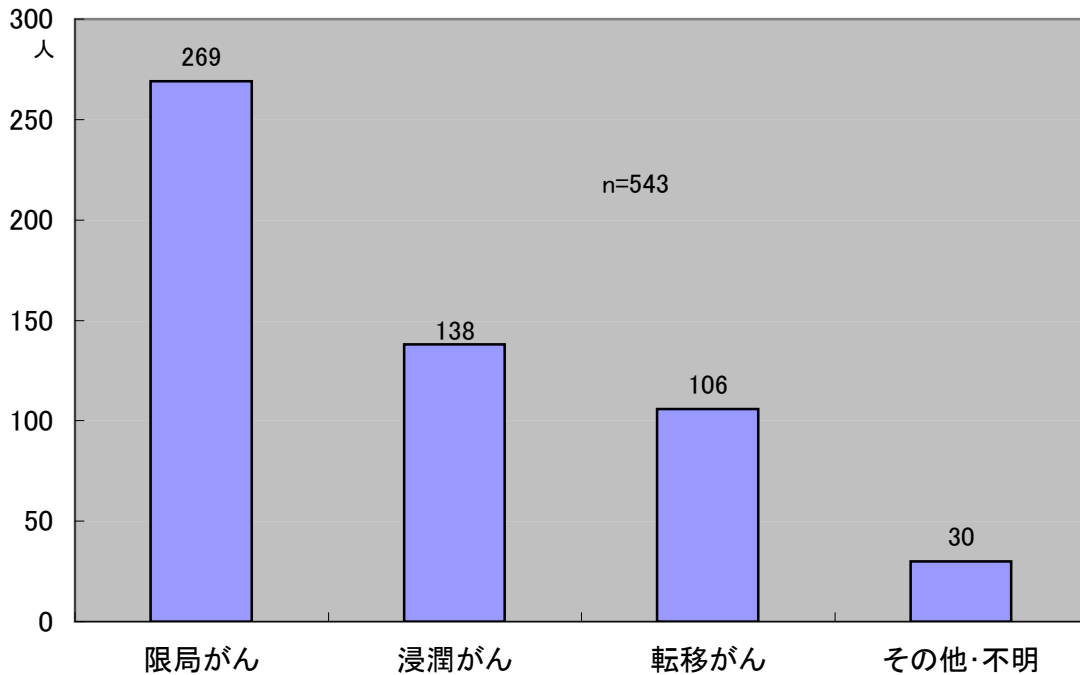
【部位別診断根拠】

胃、大腸、乳房、前立腺、食道、甲状腺では97%以上に組織診が行われ、肺は細胞診、肝臓、膵臓は特異マーカーが腎・尿路系では画像診断の割合が高くなりました。



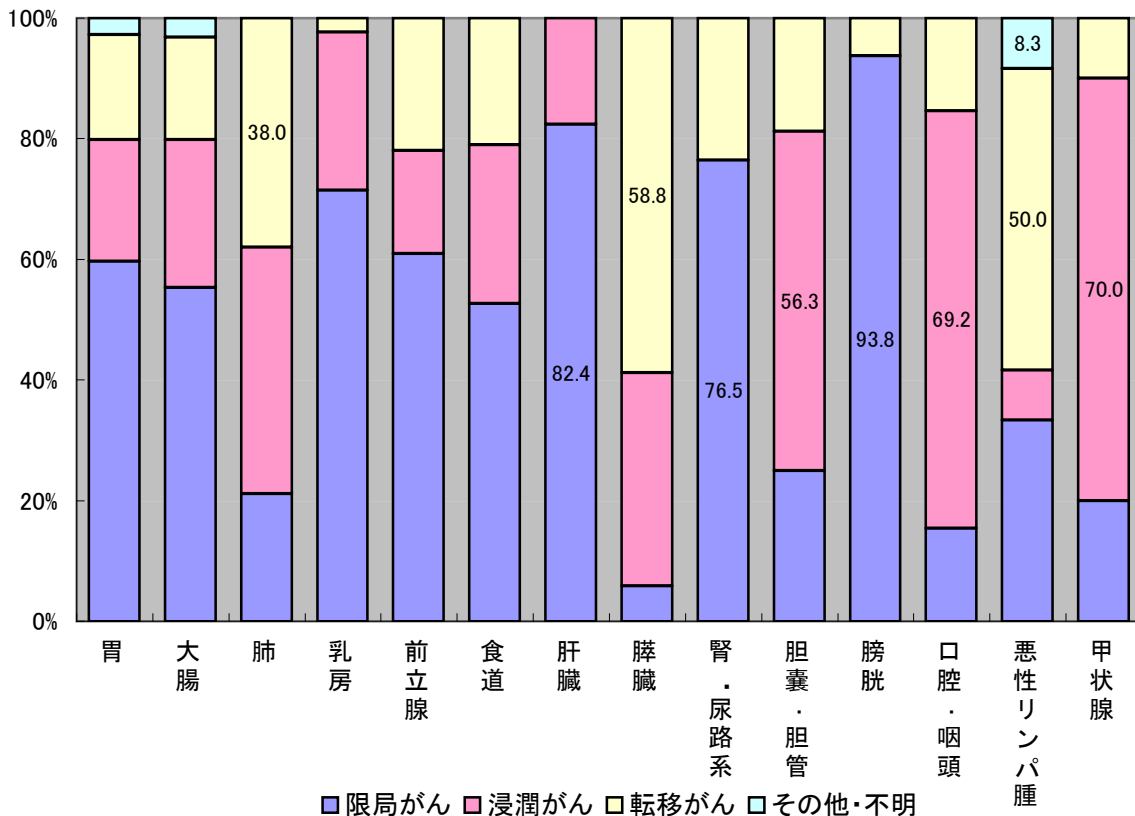
【臨床進行度】

限局がん(上皮内がん・臓器内限局)269人(49.5%)、浸潤がん(所属リンパ節転移・隣接臓器浸潤)138人(25.4%)、転移がん106人(19.5%)、その他・不明30人(5.5%)でした。



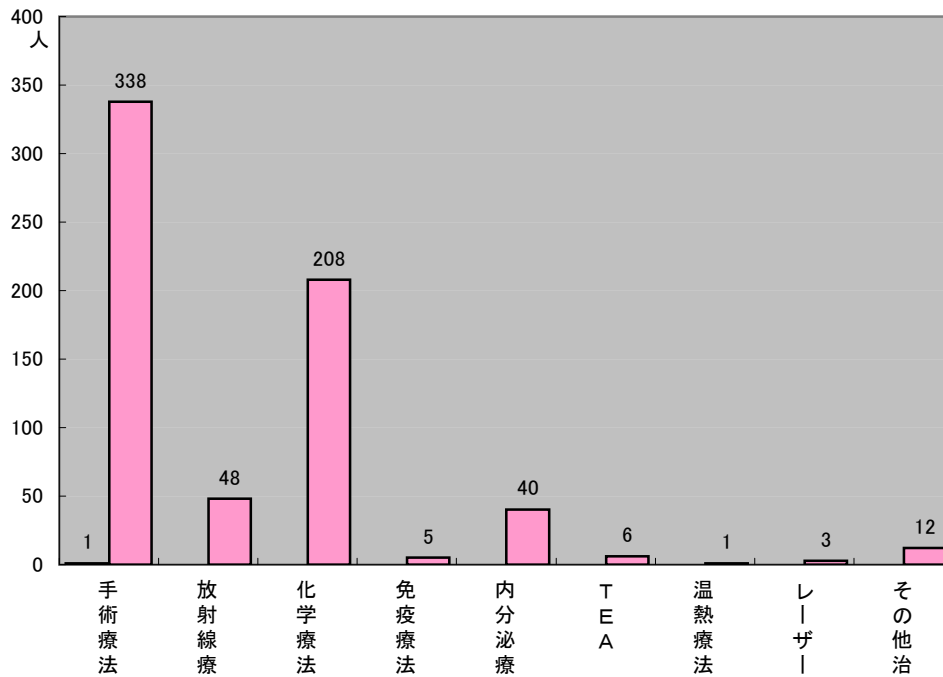
【部位別臨床進行度】

限局がんの部位別頻度は膀胱(93.8%)、肝臓(82.4%)、腎・尿路系(76.5%)、乳房(71.4%)、前立腺(61.0%)、胃(59.6%)、大腸(55.3%)、食道(52.6%)でした。



【治療内容】

治療内容は同一患者に複数の治療法が施行される例が多いので延べ数で処理しました。全患者の338人(51.1%)に手術療法が行われ、化学療法208人(31.5%)、放射線療法48人(7.3%)、内分泌療法40人(6.1%)の順でした。



【部位別治療内容】

手術療法は甲状腺(83.3%)、大腸(76.7%)、胃(73.2%)、化学療法は白血病(100%)、悪性リンパ腫(83.3%)、肺(61.2%)、放射線療法は食道(36.4%)、内分泌療法は前立腺(40.0%)、免疫療法は腎・尿路系(23.5%)においてそれぞれ多用されています。

